



# インターナショナル・ フェスティバル in カワサキ

実施日：2017年7月2日（日）

毎年欠かさず来ている常連の人、ここに来れば誰かに会えるかもと期待して来ている人、初めて来て人の多さに驚いている人などいろんな人がいました。イベントがあらこちらで行われているので一日では全部は見切れません。これがリピーターに繋がっていると思いました。

これだけの大勢の人がいるのに大騒ぎにならないのはどうしてかな？と考えました。ボランティアを含めスタッフ体制が整って機能している事、それに参加者が浴衣を着ている事が大騒ぎにならない原因を作っているのでは！と思いました。ふれあい体験は参加費500円で統一されていて、なるべく時間をかけない様にある程度工夫してあり、参加者に達成感を与えていました。世界の屋台では外国人が作る料理を珍しそうに食べていました。少しは海外に行った気分になれるのでは・・・「世界はともだち」世界中の人と出会い、異文化を体験する事が出来るのは素晴らしい事です。（米澤悦子）





## ～かわさき国際交流民間団体イベントのお知らせ～ フットメザ 世界大会開催に向けて (於: 川崎市国際交流センター)

① 講習会&体験会 2017年9月3日(日)、10月15日(日)、  
11月12日(日)、12月3日(日)

各午前11時から午後4時30分 (参加費: 一般1,000円、子ども・学生は 無料)

② フットメザ世界大会 2018年11月15日(木)、11月16日(金) 予選会  
2018年11月17日(土)、11月18日(日) 決勝戦、表彰式など

### 知ってますか? フットメザ

田中 ハーレー

フットメザとは、ブラジル生まれのテーブル上で行うサッカーです。ブラジルでは、大変ポピュラーなスポーツでたくさんの愛好者がいます。

フットメザをプレーすることで、論理に基づいた試合の組み立て、アイデア(頭)と手先(運動)の運動、失敗をしてはならない試合の重要な局面でも冷静に集中力を保つ能力、メンタルコントロールが養われます。

フィールドサッカーに比べて、決まりが多く、繊細なスポーツです。そのため、プレーヤー同士の信頼なしでは良い試合をすることはできません。選手は相手を尊重し、相手にも自身にも正直にプレーし、真剣勝負を楽しむことを学ぶのです。

フットメザにあつてフィールドサッカーにない長所は、プレーヤーの年齢、性別、体重などの身体的な違いに関係なく誰とでも公平に対戦できることです。

戦術を立てるのも、攻撃するもの、

守るのも自分。チームの勝敗は全てプレーヤー自身の手の内にあります。ボールを支配するのには指先の繊細さが必要とされ、ゴールを決める時は手が震えます。ピッチで起きる全てのことを観客として目にしながら、ピッチ上でプレーする選手やチームを指揮する監督のような緊張感を味わうことができる。それがフットメザです。



## お知らせ

広報してきた9月30日14時から  
の東風平 高根さんのコンサー  
トを良い場に行きたいと当協  
議会の会長の山本が企画に工夫を  
凝らしています。皆さま、予定通  
りにホールにご参加願います。  
ニュースレターの記事を募集し  
ています。登録団体の皆さまの記  
事寄稿を事務局から依頼しますの  
で、お問い合わせ願います。

## 編集後記

インター特集いかがでしたか?  
多くの方の原稿寄稿に感謝。多く  
の方に支えられているボランティア  
活動です。

また、交流協会と連携する日本  
語教科書をつくる団体に退職職員  
や女性を支援する団体からの食器  
などの寄付があり、大事にされて  
いるインターと感じました。

### 第3回 外国につながる子どもの

#### 高校進学を考えるフォーラム (多文化活動連絡協議会)

日本を理解し、日本語で生活と学習ができることで、豊かな人生の選択肢を持てます。外国人というと、輝くあでやかな部分に目がいきますが、普通の生活を求める方の方が多いです。しかし、多くの子どもは、VISA が切れたらという心配や日本語で学習できないために、困っています。高校の

在学率は、30%台という統計から社会に出て、貢献することの難しさを感じる人たちが毎年集まり、学習しています。この高校進学を考えるフォーラムでは、ゲストの話と現場の取り組みを紹介し、意見交換をします。

2017年6月18日のフォーラムで、交流センターのレセプションルームに40名が集い学習しました。主催者の導入説明の後、今年は、ゆるやかな連携をしている弁護士久保田祐佳先生がゲストとして話しました。弁護士が扱う外国人の裁判案件の紹介、弁護士の役割の説明がありました。さらに、担当した子どもの高校での学びから弁護士だけでなく、様々な人との関わりが重要という話がありました。その協力を主催団体から得て助けられたことへの感謝もありました。

ボランティアで行われる学習支援を長年継続している若い社会人の杉友さんから家庭への支援の実践を含めた学習支援の紹介がありました。また、1年間・月に1回子どもと共に学ぶ学習の支援をしてきた大学生の車さんから、社会への啓発について報告がありました。

川崎市国際交流協会の日本語事業の協力、自らの支援経験を持つ公益社団法人日本語教育学会人材育成コーディネーター吉田聖子先生から、ご自身が外国で経験した子育てからの学び、参加者へのアドバイスを多く頂戴しました。中でも、フォーラムの議題について話すことの大切さが印象的でした。

グループディスカッションでは、高校在学率30%、という状況を改革するための対策について考えました。

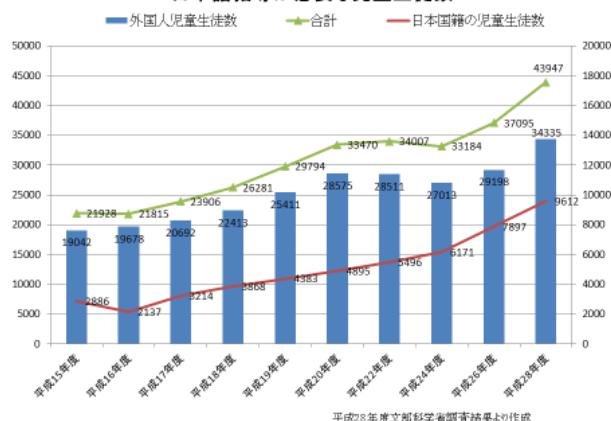
学校が、家庭学習を期待し、両輪と言っていることから、家庭の違いに着眼した考え方が、子どもの日本語力・学習力に加えて話すグループがありました。さらに、この課題を解決するのは一人ひとりの行動と政治に訴えることでもあるという話もありました。

### ～かわさき国際交流民間団体イベントの報告～

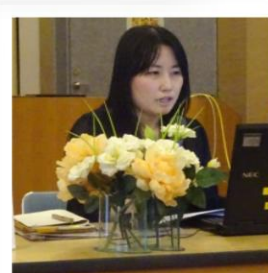
#### 日本語指導が必要な子どもは、増加傾向

文科省調査

日本語指導が必要な児童生徒数



5



久保田祐佳先生





在東京ブラジル連邦共和国総領事館  
副総領事  
ルイザ・オルタ 様



キルギス共和国大使館  
特命全権大使  
チンギス・アイダルベコフ 閣下



クロアチア共和国大使館  
特命全権大使  
ドラジェン・プラスティッチ 閣下



ミャンマー連邦共和国大使館  
特命全権大使  
トゥレイン・タン・ズイン 閣下



台北駐日経済文化代表処横浜分処  
処長  
陳 恆宏 様



ベトナム社会主義共和国大使館  
一等書記官  
ファン・クワン・フン 様



ラオス人民民主共和国大使館  
第三書記官  
ウラーポン・ブランサワン 様



在横浜大韓民国総領事館  
領事  
林 熙順 様



インターナショナル・フェスティバル  
実行委員会 委員長  
山本 忠利



公益財団法人川崎市国際交流協会  
会長  
山田 長満



川崎市市議会  
議長  
松原 成文 様



川崎市  
市長  
福田 紀彦 様

開会式は、福田紀彦川崎市長、松原成文川崎市議会議長、クロアチア共和国ドラジェン・プラスティッチ大使、キルギス共和国チンギス・アイダルベコフ大使、ミャンマー連邦共和国トゥレイン・タン・ズイン大使をはじめ、各国からのご参加をはじめ、県、市の議員の皆様、協賛団体の皆様など多数の来賓の方々の出席をいただき、レセプションルームに於いて開催されました。大使をはじめ各国の参加者からは心のこもったご祝辞を頂きました。

クロアチア共和国大使、キルギス共和国大使、ミャンマー連邦共和国大使、台北駐日経済文化代表処横浜分処処長の各氏のご家族を伴って参加され、開会式だけでなくフェスティバル会場を巡り楽しんでいただきました。

今年の開会式は来賓の皆さまの着席を待って開会の和太鼓演奏を行い、来賓の皆さま全員にパフォーマンスを楽しんでいただくことができました。開会式後の食事会の席でもこの和太鼓演奏が話題になり、式典の始まりに、参加された皆様に楽しんでいただくプログラムを用意することも大事だと痛感しました。(和太鼓祭音・山本忠利記)



## レセプションルーム ふれあい交流ステージ

レセプションルームは、午前の開会式が順調に進み、午後は、シルクロードの踊り、ベトナムの伝統舞踊、台湾民族楽器演奏、フィリピン舞踊そしてアフリカの音楽と、計5地域の発表がありました。どの音楽、踊りも会場の皆さんを巻き込み、年齢や国籍を超えて一丸となり会場が熱気に包まれました。  
発表者も参加者も心に残る夏のひと時となったことと思います。  
(藤平 真梨)



## センター前広場が イベント会場

今年はボランティアの「麻生サウンド・ビジョン」の方々が音響を担当してくださりと、とてもスムーズに最後まで進行することができました。  
また、司会の声優志望の女子高生の方が素晴らしい、上手にお客様を呼び込んで、演技の感想も交えながら、プロ顔負けの司会進行ぶりにとっても頼もしく感じました。  
多少のトラブルはあったものの、ボランティアの方々がおぼれみなしで頑張ってください、大成功の屋外ステージでした。  
(戸沼季代)





## 留学生の声

今年も大変暑い中、インターナショナル・フェスティバルが無事に終わりました。

私は二度目の参加となり、去年と違う役割を担当させていただきました。毎年、多様なコーナーが用意され、出演者の方々も素晴らしいパフォーマンスを披露してくださって、充実さに関して是一日でも楽しみきれないと思います。

そして、インターフェスで諸外国の方々との交流ができ、日本が世界とつながる一つのきっかけになりました。

また、自分のアイデンティティや母国について語り合うというのも滅多にない経験です。もちろん、その経験は自分の人生を豊かにし、自分にとって留学時代の素敵な思い出になるに違いありません。

(鮑 辰)



## ボランティアの声

川崎に住み始めてから約四ヶ月経ちました。新しい街と少しずつ馴染み、毎日前の日より少しずつ好きになります。7月にはインターナショナル・フェスティバルに参加する事が出来ました。土曜日はボランティアの皆と準備をして、とても楽しい時間を過ごしました。学生で一人暮らしだと一人の時間が多いので一日中沢山のひとと話せてボランティアができてとても嬉しかったです。日曜日はボランティアもして、ピアノも演奏しました。ここで演奏出来るとは思ってなかったのも、とても光栄でした。色んな人に聞いてもらいとても嬉しかったです。貴重な思い出になりました。一番最後には盆踊りに参加しました。最初は何も分からなくて難しかったですが、浴衣姿の人に丁寧に教えてもらい最終的には、楽しく踊れました！日本の文化をこの様に直接触れて自分の身体で味わう事は、素敵だなと心から思いました。またそういう経験を沢山したいです。これからも日本での学生生活を精一杯頑張ります。

ノルウェー

マリア ブーエ ケッセル



## 交流サロン



### インドネシア影絵、踊り

影絵の人形を使ってお客さん呼び込みました。約50名の親子が見に来て下さいました。靴はビニール袋に入れてもらい、ゴザに座って見てもらいました。インドネシア舞踊は本格的で素晴らしかったです。インドネシア音楽や歌も情緒豊かで異文化体験が出来ました。

影絵はインドネシア人の男性が担当しました。物語は「赤ちやんのへその緒がお母さんから取れなくて困っている」という内容でした。インドネシア訛りの日本語がかえって物語を面白くしていました。話しの中で「私は国際交流センターで日本語の勉強をしました。この事は朝日新聞や東京新聞にでていましたよ。彼は元住吉駅から来ました」など物語とは関係のない身近な話題を取り入れて観衆を笑わせ、飽きさせませんでした。

子供達の感想は「へその緒がつながったままなのが面白かった。」、「影絵の細工が細かくてきれいですごくいいな」と思っ

た。ブラジルの「輪になって踊ろう」はみんな笑顔で踊っていました。(米沢 悦子)

## 盆踊り

盆踊りと言うと、満天の星空の下、夜風に吹かれて・・・となるところ、このフェスティバルでは、シャンデリアを頭上にいただき、冷房が効いた屋内で致します。毎回踊る曲は3曲。このフェスティバルの起源となった「七夕祭り」に因んで「七夕」。国民的民謡「炭坑節」、そしてどの国の人でも軽快なリズムに乗って踊れる「ビューティフル・サンデー」。

今回も力強いバチ捌きで武蔵野太鼓さんの応援をいただき、木月一丁目会婦人部、日舞扇の会、そして担当の若仁会で輪を作り、インド・ノルウェー・中国など、世界の若者たちと手をつなぎ、あっという間の楽しい1時間となりました。

この風景は、交流センターならではのフェスティバルを最後に盛り上げる恒例となっています。

(野間 晴)





## 世界の料理コーナー

### 出店団体からの感想

今年、世界の料理出店数は十八店舗でした。

・出店数が多かったので、そんなに売れない  
 と思い、食数を少なく用意したので、予定時間  
 よりかなり早く、すべて完売してしまいました。

・他の団体のゴミをたくさん捨てられてしま  
 った。注意してもそのままにされた。一人でや  
 っていたので、どうしようもなかった。

・ここ何年も出店していますが、今まで一番  
 よく売れました。来年も、出店したいです。



## 談話ロビー特設ステージ

### 「客席は世界中の美しいメロディーに包まれて」

コミカルな音楽で登場のクラウンのふくろうくん、今年も楽しい一日がスタートしました。今年は音楽関連が多く貴重でした。ボサノバギター、馬頭琴のホームー、エレキギター、ピアノ演奏と歌唱や伝統的なダンスやブラジルのカポエイラとベリンバオ演奏。きれいな音色に魅了されました。また、ラオスやバンングラデシュ、イギリス、クロアチア、キルギスの各国紹介と内閣府青年国際交流活動報告。世界各地を知る機会となりました。一度に世界事情や最新情報を得られることもこのイベントならではの。特に今年は出演者やスタッフで留学生が大活躍しました。若い力がこの祭りを支えていることも意義のあるものになっています。(梅本真理子)





## 抹茶体験コーナー



### 感想 「イギリスの高校生」

日本への研修旅行中、川崎市を訪れ、茶道を体験しました。私たちは前にイギリスで文化体験の一部として、茶道を行ったことがあります。しかし、伝統的な茶室でのきちんとした茶道体験は全く違っていました。茶菓子は味も目も楽しませるものでした。ある生徒は私たちが普段ミルクと砂糖を入れて飲んでいるお茶とだいぶ異なっていたので、お茶の味がとても面白かったと思います。別の生徒は、このお茶はとても好きだけど量が少なかったで、別のお椀で飲みたかったと言っていました。別の生徒は足が痛くて、その後まっすぐ歩くことができませんでしたと言っていました。概して茶道体験はすばらしくとても楽しかったです。このような機会をいただき、本当にありがとうございました。

## 世界の物産コーナー



身近な多文化交流の場となる「世界の物産」コーナー。今年は参加団体数を精査し、談話ロビーに8団体、プロムナードに3団体の参加に加え、ギャラリにクロアチア共和国・リエカ市と川崎市の姉妹都市提携40周年を記念した特設コーナーを設け、14団体による13の国と地域の紹介及び民芸品、雑貨、食品の試食販売をした。

第4回実行委員会に集まったことで、参加団体間の協力と交流は準備の時から始まっていた。

10時になり、各ブース一斉に出店国（地域）の紹介・商品の説明が始まると、コーナー全体が笑顔と熱気に包まれた。暑さに負けず終了まで続いた弾む会話がとても心地よく感じたのは、各所に設置された扇風機で暑さが少し和らいでいたのかしら???

（川又裕美）

## 展示ロビー



今年の展示ロビーは、国際交流関係8団体の参加がありました。展示ロビーは、1階突き当たり右奥の広場なのですが、昨年度11団体の参加と比べて3団体少なくなつたので、昨年度のような混雑混乱がなかったように感じました。昨年度は、ロビー中央にまで展示机を出していましたが、今年は壁面に展示パネルと机が全て並び、すっきりとした印象に。ロビーは来訪者の移動通路も兼ねているので、展示を見る人の後ろを通る人の移動が容易になり、暑さと混乱をだいぶ防ぐことができたように思います。

各団体、手にとって見られる展示品にも趣向を凝らしていて、来訪者に喜んでいただく展示ができてよかったです。（若槻 久美子）

## ホール

各団体とも当日、本番に向けてきつと時間をかけて準備に余念がなかったことでしょう。

観客の皆様も温かい拍手でどのプログラムも盛り上がりつつありました。皆様方の熱演、本当にお疲れ様でした。

日本の伝統芸能も数多くプログラムを組んでいましたが日本人として知っているようで知らないこともたくさんあります。

まずは「見ること」「知ってみよう」と思うことから交流が始まることを感じました。この機会に多くの皆さんが交流できたことは良い経験だったと思います。

（長澤 紀子）





## 特別展示コーナー

ホール1階出口前のスペース「ホワイエ」で大使館などから提供された写真やポスターを中心に4つの展示をしました。

1.「クロアチア共和国リエカ市姉妹都市提携40周年記念」。川崎市最初の姉妹都市です。リエカ市内の様子などさまざまな質問を受けました。尚フェスタ当日夜から市民交流団24名がリエカ市に向かいました。

2.「アイルランド国関係樹立60周年記念」。観光地、自然豊かな風景の大型ポスターが目ま引いていました。

9月～10月に3回開催されるアイリッシュダンスのワークショップのPRも行いました。

3.「ザルツブルグ姉妹都市提携25周年記念」。モーツアルトの生家である5階建のアパートの写真を見た小学低学年の子どもが生まれた部屋を母親にしつこく尋ねるなど若い親子連れが丁寧に見てくれました。

4.「キルギス共和国」。中央アジアの高山の風景写真。  
(森本賢幸)



## 世界と出会う部屋

日本の中で世界と出会い、多文化共生の社会を考えていただく交流展示とミニ発表の部屋として、定着しきっています。

種々の国のルーツを持つ若い社会人・大学生・高校生・中学生が多言語で絵本の読み聞かせ、大人の読み聞かせ、エスプラント語の講座と読み聞かせ、さらに開発教育協会のワークショップを実施しました。

世界の絵本の展示、「世界のお金を見てみよう」には親子連れが、楽しく話していました。

高校進学を考える交流展示では、知らなかった課題を知ることができたとの感想が多くありました。

今年は、大人と子どもを合わせて十言語以上の外国語にふれる部屋になりました。



## 体験コーナー



1階の奥にある第1会議室で、今年もかわさき装芸、ハクビ平賀教室、みやうちの3団体合同で行われました。10時前よりイギリスのマンチェスターの学生や先生を皮切りに今までになく、お客様が続いていらしていただきました。

更に、午後には中国の高校生と先生たち18名が一気に押し寄せて参加、スタッフは休憩ままならぬほど対応に追われていました。

女性達はヘアもアップにし、髪飾りをつけ大和撫子に変身。男性達はジャパニーズさむらいに変身すると皆、満面の笑みを見せて喜んでもらえる様子に、スタッフ一同、疲れよりも嬉しい気持ちで終えることが出来ました。(佐藤和子)

## フリーマーケット

フリーマーケットで  
国際交流を」

展示会場は昨年同様本館2階の第4・5会議室に設営され、今年は5団体が出展しました。

開店の10時前には、リピーターであろう10数人が入り口に待機していました。来店者総数は、推定で2500人から3000人くらいでした。

展示品のうち、衣類(子供服)・アクセサリ・小物陶磁器などに人気がありました。アジア系のお客様が多いような印象を受けたのは文化の共通性なのかと思います。

(大門裕章)

